

BRITISH AMERICAN
TOBACCO
JAPAN

喫煙と健康

受動喫煙 (Second-hand smoke)

 印刷

世界保健機関、米国公衆衛生局 (the United States Surgeon General) や、その他の公共保険機関は、受動喫煙または間接喫煙が肺がんや心臓病、児童の呼吸器疾患などの様々な疾病の原因の一つになると結論づけています。

これらの機関は、受動喫煙がどの程度であれば安全なのかは明らかでないとし、公共の場での喫煙を禁止することが最善の公衆衛生対策になると報告しています。

私たちの科学的見解

受動喫煙に伴うリスクは疫学的調査で測定されています。これら調査の大半はアンケートを用い、「喫煙者と結婚している非喫煙者の女性」と「非喫煙者と結婚している非喫煙者の女性」における肺がん等の罹患率を比較しています。



肺がんに関しては、大規模な調査の結果、長期にわたり受動喫煙に曝されている非喫煙者の相対的リスクは1.3であることが報告されています。相対的リスク1はリスクのないことを意味します。長期にわたる喫煙から起こる肺がん罹患の相対的リスクは20以上です。

心臓疾患についても、受動喫煙に曝されている非喫煙者の相対的リスクは約1.3であることが大規模な調査結果により報告されています。喫煙者の心臓疾患罹患の相対的リスクは3~5です。

多くの疫学者は、相対的リスクが2未満では疾患との関連性が弱く、関連性が強い場合と比べると数値化するのが難しいとの見解を示しています。おそらく、個々の調査で報告されている相対的リスクが2未満であるため、大半の調査が統計的有意性に達していないと思われます。

喫煙者を両親にもつ児童の呼吸器疾患調査と、受動喫煙が喘息の症状を悪化させるかどうかについての研究結果で、受動喫煙は児童の呼吸器疾患のリスクを高める可能性があり、また喘息の症状がある人についてはその症状を悪化させる可能性があること示唆しています。

規制に対する私たちの取り組み

私たちは、非喫煙者と喫煙者双方の利益を調整し、また非喫煙者が心ならずも受動喫煙に曝されることになる状況を極小化させるための規制を支持します。

私たちは、公共の場の屋内における喫煙を制限することを支持し、規制の必要性を認識しています。私たちはまた、禁煙エリアを設置するとともに、喫煙者には喫煙場所を提供するなど、現実的な取り組みを支援しています。

私たちは、すべての人とバランスをとりながら現実的な取り組みを考えています。詳しくは「公共の場での喫煙」と「快適な屋外スペース」をご覧ください。

喫煙と疾患については、「健康について重要なこと」をご覧ください。